

「イエスが二度死んだ」 という教理はなぜ偽りの教えなのか

ジェフ・トゥール

イントロダクション

この記事はウェブサイトに掲載された最初の記事の続編となります。この記事の目的は私たちの根拠を単純に、また明確に示すことです。

1. 信仰のことは運動は混ざり合った運動で、その中のすべての教師が全く同じ教えをしているわけではありません。また信仰のことは教師の教えの中にはある程度の矛盾があります。ですが、「イエスが二度死んだ」という教えは、長年にわたってその運動の中で一貫して広められてきました。最も人気のある支持者はE・W・ケニオンやケネス・ヘーゲン、ケネス・コーブランドです。主に彼らの問題を扱うのは、他の教師たちはみな基本的にこの点において彼らから教えを得ているとされるからです。
2. 「イエスが二度死んだ」という教理は異端です。気を損ねてしまう人もいると思いますが、これは事実です。これは長年にわたって福音派の教会の大半が公に表明してきた事実です。英語を使ってインターネットを少し調べてみるだけで、なぜ彼らの教えが偽りであるか数多くのサイトが英語で説明しています。「異端」（ギリシア語のハイレシス *haireisis*）という言葉は文字通りには、宗派に至らせる「選ばれた意見」という意味であり、または非聖書的である「意見を選ぶこと」です。この言葉はパリサイ人の宗派——使徒 5 章 15 節、サドカイ人——使徒 5 章 17 節、またクリスチャンたち——24 章 5 節、14 節などに使われています。またそれは第二ペテロ 2 章 1 節では分派を起す教えにも使われており、それはガラテヤ 5 章 20 節の肉の行いをも含みます。これは誰もが神学において完全ではないので、すべてのクリスチャンがある程度は誤りがあります。またその言葉は 1 コリント 11 章 19 節でほぼ肯定的な意味で使われています。
『というのは、あなたがたの中でほんとうの信者が明らかにされるためには、分派が起こるのもやむをえないからです』
しかしながら、新約聖書の中で厳しく扱われている程度の高い間違いがあり、それは容認できないものです。その中にはこのトピックに関連する特定のふたつの例があります。これは「別の福音」と「キリストの神性の否定」です。

- ① ひとつは「もうひとつの福音」です。福音の教えまた救いの方法に関して、パウロはガラテヤの中で明示し、もうひとつの福音を持つ者は“アナセマ (*Anathema* 贖いの希望が無い状態で神に引き渡されること)”だと書いています。

『私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。』 (ガラテヤ 1 章 6 節-8 節)

ガラテヤ人への手紙の文脈はユダヤ教化に関してですが、当然ながらこの原則は、パウロや使徒たちが宣べ伝えていない「他の」福音にも適用されます。

- ② 他の教理は「神の御子」の教理です。私たちはこの問題について間違えるわけにはいきません。

『それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのことを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。』 (ヨハネ 8 章 24 節)

『偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。』 (1ヨハネ 2章 22節)

聖書はその中に理解するのに難しい事柄があることをはっきりと示しています。

『都上りの歌。ダビデによる 主よ。私の心は誇らず、私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなことや、奇しいことに、私は深入りしません。』 (詩編 131 編 1節)

明らかにこの中に三位一体も含まれます。誰が御父と御子、そして聖霊の間における関係を完全に理解できるでしょうか。しかし真実なのはイエスが神の御子であり、永遠の神であることです。これらのことは聖書を通して、特に新約聖書を通してはっきりと教えられているため妥協することができません。これらを否定することは一般の、また正確な意味での異端です。

「イエスは二度死んだ」という教理は、救いの教理と共に、キリストの人性と神性を攻撃するものです。この理由のためにそれは異端と呼ばれる必要があります、実体を暴露される必要があります。私はここで、これを教える人がすべて地獄に行くと言っているのでも、これを信じている人がすべて地獄に行くと言っているのでもありません。全くそうではありません。それでもなお神はこれを深刻に受けとめ、救いの道とキリストの人性についての真理を否定するいかなる教理をも呪っています。私自身はペンテコステ派です。私は信仰生活の初期にケネス・ヘーゲンの教えを楽しみ、広めていた者としてこれを書いています。ケネス・ヘーゲンとケネス・コーブランドは多くの理由から偽りの教師と正しく言うことができます。ケネス・コーブランドの冒とくはすさまじいもので、それは長年にわたって公の目にさらされてきました。この記事では「イエスが二度死んだ」という教えのみを扱っていきます。E・W・ケニオンはこれを教え、ケネス・ヘーゲンもこれを教え、ケネス・コーブランドもこれを教え、“信仰のことば”の有名なテレビ伝道者たちの大半もこれを教えてきました。これは純粋な事実です。私はあらゆる教師の言葉を引用して時間を浪費したくはありません。この最新の記事ではケネス・ヘーゲンと彼の弟子ケネス・コーブランドに注目します。現代において彼らが最もこの教えを広めたことにおいて責任があるからです。

ポイント 1 キリストの人性と神性

イエスは永遠の神です。ミカ書 5章 2節はこう書いています

『ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。』

『主であるわたしは変わることがない。ヤコブの子らよ。あなたがたは、滅ぼし尽くされない。』 (マラキ 3章 6節)

『イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。』 (ヘブル 13章 8節)

神は変わる事(神でなくなる事)ができないのです。これは聖書で教えられている通りに、不変性の教理と呼ばれます。

聖書はイエスとその永遠で、変わる事のない神、ヤハウエであると明かしています。

『それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのこと *[I am He]* を信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。』 (ヨハネ 8章 24節)

「イエスが二度死んだ」という教理はイエスとその霊において神から引き離され、サタンの性質を負ったと主張しています。

ケネス・ヘーゲンはこう教えます、

『靈的な死とは神から離される以上のことを意味する。また靈的な死はサタンの性質を持つことをも意味する...イエスは死—靈的な死—をすべての人のために味わわれた』 K. Hagin, *The Name of Jesus*, 1981) p.31.

ヘーゲンが説明します、

『永遠のいのちを受けることが、私たちの内に神の性質を受けるのと同じように、靈的な死とはサタンの性質を受けることを意味する』 K. Hagin, *Redeemed*, Tulsa, OK, Faith Library, 1966, p.29

イエスは道であり、真理でありいのちです。彼は昨日も今日も、いつまでも同じです。もしキリストが悪魔の性質を受けて、靈的に死んだのなら、神であることをやめたこととなります。もし彼がいかなる時にも神であることをやめたなら、それは被造物になることであり、永遠なる神ではありません。単純な話です。イエスはヤハウエであり、変わることはないのです。

確かにイエスはご自分の栄光を一時の間放棄しましたが、神でなくなった訳では決してありません。それはあたかも探偵が身なりを隠し、警察が制服を着なかったとしても警察でなくなるわけではないようなことです。しかし警察が本当の犯罪者になってしまうと、警察の職から外されるしかありません。イエスがご自分の意思や力で何の奇跡を行わず、聖霊の力によって御父の意思に従って行われたとしても、イエスはそれでも神です。彼の物質的な体だけが死んで、よみがえりました。そうでなければ神の不変性を否定してしまうこととなります。それが異端です。

ポイント 1 の考察

サタンはひとつの被造物です。サタンはまた墮落した存在です。サタンの性質を持つということは必然的に創造され、墮落したものでなければなりません。神は純粋です。以下の聖句がそれを示しています

『神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。』 (1ヨハネ 1章 5節)

『すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。』 (ヤコブ 1章 17節)

『それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない」と書いてあるからです。』 (1ペテロ 1章 16節)

イエスは悪魔の性質をヨハネ 8章 44章で説明しました

『あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。』

またヨハネ 10章 10節でも

『盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。』

ヘーゲンとその関係者たちは私たちの主が、十字架上でサタンの性質を持ったと言いがかりをつけています。フレッド・プライスはイエスがそれをゲツセマネの園で受けたと考えています。

『彼（イエス）が十字架に架けられた時と、ゲツセマネの園にいたどこかの時点で—彼は靈的に死なれた。個人的にはそれは彼が園にいた時だと思っている』 (Frederick K. C. Price,

Identification #3 (Ever Increasing Faith Ministries, 1980) tape #FP545, side 1)

ケネス・コーブランドはそれが十字架上であったと考えます

『彼はサタンの罪の性質をご自分の霊に受け入れた。その瞬間、彼は叫んで「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と言ったのだ』(Kenneth Copeland, What Happened From the Cross to the Throne? cassette tape 1990, Side B)

イエスはサタンの性質を次のように語りました

※あなたたがの父の欲望を成し遂げたいとするもの

イエスは『わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください』と言い、自分の奉仕に忠実であり続けました

※人殺し

イエスは『わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。』(ヨハネ 10 章 11 節) と言い、羊の所有者でない雇い人は羊のことを気遣っていないため、逃げ出すと言われました

※真理に立っていない

※偽り (偽りの父)

※盗み、殺し、滅ぼす

一方、イエスさまが十字架の上にいたとき、彼は御父に従順で、ご自分の羊を終わりまで愛し(ヨハネ 13 章 1 節)、自分を罵る者たちを赦し、敵のために祈り、十字架から降りてくることを拒み、自分のいのちを他の者たちに与え、(真理に立ち) 忠実であり、真実の預言をお与えになりました。

その人は実によって分かれると書かれてあります。どこでサタンの性質が現れたのでしょうか? これはあらゆるものの中であからさまで最悪な冒とくです。前回の記事で書いたことをここで繰り返はしませんが、もう一度読まれると、十字架の象徴のすべて、犠牲の動物すべてが傷の無いものでならなかったことが分かります。

イエスが霊的に死に、墮落した性質やサタンの性質を受けたということは、神に墮落した被造物の性質を帰することになります。神は変わることがありません。イエスは嘲られ、打たれ、十字架に釘で刺された時、私たちの罪のために呪いを受けました。しかし聖書全体を通して、彼に罪が無かったことは明らかにされています。

信仰のことは運動は絶えずキリストの人性を貶めるものであって、事実上、人を神のレベルまで引き上げています。

ポイント 2 イエスは私たちの罪を地獄ではなく、十字架上で贖った

前回の記事では、多くの聖書箇所を載せて、血を流すことが罪の贖いをするを説明しました。

『まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。』(ヘブル 9 章 14 節)

新約を優れたものとしているのは、その血が動物の血ではなくキリストの血であるからです。彼の尊い血は私たちの良心をきよめます。

『しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。』(1 ヨハネ 1 章 7 節)

キリストの流された血は私たちをすべての罪からきよめます

『それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。』(ヘブル 9 章 22 節)

キリストの血が、唯一キリストの血だけが赦しをもたらします。

贖いを十字架以外に基づかせることは、みことばと異質の他の救いの教えです。それゆえにこの教えは異端なのです。私たちはこの最も本質的な教理を動かすことはできません。パウロは、もしみ使いが現れて、違った福音を宣べ伝えるならそれはアナセマ、呪われるべきだと語りました。

『三日間彼は極限まで苦しみを受けた。ある人たちはこれを信じようとしない。彼らは、イエスが死なれた後に、聖書でパラダイスと呼ばれているシェオル（よみ）の上の部分にただ留まっていたと信じたがっている。しかしなんと誤った考えだろうか！もし彼がただそこに留まっているだけならば、罪のための代価は何も支払われなかったのだから』(Believer's Voice of Victory, Vol. 19, No. 9, Sept. 1991)

ケネス・コーブランドは間違っています。罪のための代価はイエスの血であり、イエスの物質的な体です。

『あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。』(使徒 20 章 28 節)

『この方であって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。』(エペソ 1 章 7 節)

十字架上の贖いであっても、死の後の贖いであっても大差ないと思われるかもしれませんが。しかしこれは聖書中にある中で最も重要な教理のひとつです。血が注ぎ出されることと、汚れのないいけにえの肉体的な死が罪を覆う（キリストの場合は罪を取り去る）という教えより明らかなものがあるでしょうか？これに付け加えること、また何かを取り去ったり、ねじ曲げることが異端です。救いの教理は人を永遠のいのちへ至らせるものです。それをずさんに扱ってはなりません！

ポイント 2 の考察

この点において、信仰のことばの教師たちは完全に真理から逸脱しています。

よみ（ハデス）は地獄ではありません。これはケネス・ヘーゲンが読んでいる欽定訳の誤訳です。イエスは地獄で苦しみませんでした。死の場所はヘブライ語で“シオール”と呼ばれ、ギリシア語では“ハデス”です。

キリストは悔い改めた盗人に宣言されました

『イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」』ルカ 23 章 43 節

今日と言ったのであって、三日後ではありません。パラダイスであり、シオールやハデスではありません。

悔い改めた盗人と共にイエスが行かれたパラダイスとは？

パラダイスという言葉はヘブライ語で園を意味する“パレデイス (פַּרְדֵּיִס paredeis)”からきています。これはネヘミヤ 2 章 8 節、伝道者の書 2 章 5 節、雅歌 4 章 13 節に登場します。同様に黙示録でも語られています。

『耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べさせよう。』(黙示録 2 章 7 節)

初代教会の教父たちは、それはアダムとエバが追放された永遠のエデンだと書いています。それは推測にすぎません。ですが、パラダイスの教理を打ち立てることのできるただもうひとつの聖書箇所は

第二コリント 12 章 4 節です。

『パラダイスに引き上げられて、人間には語ることを許されていない、口に出すことのできないことばを聞いたことを知っています。』

パウロはパラダイスへ“引き上げられ”ました。それはまた“第三の天”とも呼ばれています（2 コリント 12 章 2 節）。それは引き上げられたのであって、下ったものではありません。この“引き上げられる”というのは“ハルペイゾー (*harpezo*) ”といい、同じ言葉が携挙として使われています（1 テサロニケ 4 章 17 節）。

イエスの物質的な体は三日間は墓の中に置かれていたとしても、霊において悔い改めた盗人とパラダイスにいました。“上にある神の御前”です。肉体から離れて、主とともにいたのです。イエスは捕囚を連れて行きました。イエスは捕われている者たちを解放するためアブラハムの胸元に行き、神の素晴らしい恵みを宣言し、パラダイスに連れて行ったのです。イエスが地獄で苦しめたことを教える聖書箇所は何もなく、霊的に死んだ、または地獄で贖いをしたなんてことはありません。

悪魔は地獄にはいません。悪魔は黙示録 20 章の状態になり、縛られ穴に投げ込まれるまでそこにはいません。地獄に投げ込まれ、今も縛られているみ使いは“タルタラオー (*Tartaroo* 2 ペテロ 2 章 4 節)”にいますのであって、“ハデス”ではありません。それがどこなのか私たちは確証を持っていません。聖書は詳しく語っていません。ハデスは千年王国の終わりに燃える火の池の中に投げ込まれます。また私たちが確証を持つことができるのは、悔い改めた盗人は燃える裁きの場所に行ったのではなく、主が約束された通りパラダイスに行ったということです。

イエスは肉体的に死に、すべての義なる者たちと共に神のいる天のパラダイスへと昇りました。これが彼が死んだその日に起こりました。三日後ではありません。

『彼（イエス）は悪魔に地獄の深みまで連れて行かれるのを許しになった...彼はサタンの支配下に置かれることを許された...地獄のすべての悪霊が彼を滅ぼすために彼の上に来た...悪霊たちは私たちが誰も想像できないほどまで彼を苦しめた。三日間彼は極限まで苦しめられた』
(Kenneth Copeland, "The Price of It All," 3.)

これは非聖書的なくだらな話に他なりません。すべての点において非聖書的で、冒とく的です。

罪の代価が払われ、人が赦しを受けたのはいつでしょうか？

『すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都に入って多くの人に現われた。』（マタイ 27 章 51 節－53 節）

※罪深い人と聖なる神の隔てを意味していた幕が、イエスさまが死んだ時に裂けました。復活の時ではありません

※聖徒たちの墓が開いたのはイエスが死んだ時点であって、復活の時ではありません。彼らは、キリストが初穂となるため、自分たちの復活の順番を三日間墓で待っていました（1 コリント 15 章 20 節－23 節）。同様に信者は今赦しを受けていますが、復活で私たちの順序を待っているのです

他の問題点

モリエル日本の最初の記事の異議として、次のような点が挙げられました。

①イザヤ 53 章 9 節は死という言葉が複数形で書いている。これが二重の死の根拠ではないか？これは単により深い真理を示すヘブライ的な文章構造です。これはイエスが死なれた死の複数性と関連する本文と一致しています（彼は彼らの「複数の死」を死なれた）。しかし彼自身の死についてある箇所、同じ章の 53 章 12 節では死という言葉は単数形になっています。詳細については後の記事で説明したいと思います。

②詩編 88 編はメシアが地獄で苦しんだことを描写しているのではないか？

これはいくつかの理由から真実ではありません。

1. この箇所は神の御手から断ち切られた者として穴に下ることに関してです（88 編 5 節）。イエスは『父よ。わが霊を御手にゆだねます』と言いました。
2. ここでの人物は『私は閉じ込められて、出て行くことができません』（88 編 8 節）と語っています。しかしイエスさまはいつもご自分の状況に対して主導権を持っていました。『だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。』（ヨハネ 10 章 18 節）
3. 詩編 88 編 10 節から 12 節 これは自分の死に何の意味も見出さない者の問いかけです。イエスは自分が肉体的に死ぬことの必要性和、そのことを何度も予告されました。
4. 『あなたは私を最も深い穴に置いておられます。そこは暗い所、深い淵です』（88 編 6 節）しかしイエスは『あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます』と言われました。またパラダイスは教理的に第三の天と関連しており（2 コリント 12 章 2 節、4 節）、そこはいのちの木がある天です（黙示録 2 章 7 節）。地獄ではありません。イエスの物質的な体はハデスにあり、そこはある意味で墓といえます。彼の霊はパラダイスにおられたのです。ミドラッシュや象徴は教理を説明すべきものであって、教理を形作るものではありません。この苦しみの元にあった文字通りの人物のこれらの特徴は、新約聖書のキリストに関しての明らかな教えと矛盾しており、象徴に合わせるために明らかな教えを変えることはできません。そうしてしまうと、良い解釈法のすべてを破ってしまうことになります。

③イエスは、私たちの罪の代価すべてを支払った後、復活の後にのみ義と宣言されたのではないのか？

イエスは、私たちの罪を負い、苦しんでいる間も義と宣言されていました（イザヤ 53 章 11 節）。

④ヘブル 2 章 14 節とコロサイ 2 章 15 節は、イエスが地獄で悪魔に勝利したことを教えていないか？

『いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。』（コロサイ 2 章 14 節）

サタンは兄弟を告発する者です。私たちを責め立てている債務証書や定めは取り去られ、十字架に釘づけられたため、彼は何も訴えるものを持っていません。これが支配の武装が解除されたという意味です。ここで地獄という言葉はどの形でも出てきません。同様にヘブル 2 章 14 節でも地獄という言葉はどの原語でも登場しません。対して、この箇所ではイエスの肉体と血が強調されていて、それが死ななければならなかったのです。

⑤ヨハネ 19 章 28 節から 30 節について。これはただイエスが贖いの完成を宣言する最後の機会であっただけではないのか？（3 日後まで完成されていなかったということ）

『この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。』（ヨハネ 19 章 28 節-30 節）

「イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために...「完了した」と言われた...霊をお渡しになった」

ヨハネ 19 章 28 節の「すでに（NASB など、新共同訳には“今や”、“今”とも訳される“エーデー”）」という言葉はマタイ 3 章 10 節、5 章 28 節、14 章 15 節と同じです。それは「すぐそうなる」という意味ではありません。エリヤはもうすでに来たのです（マタイ 17 章 12 節）。なので、すべてのことがもうすでに完成されたのです。

ヨハネにはイエスがすべてのことがすでに完了したのを知っていたとあります。それが終わっておらず、すべてのことが完了していないということはキリストの明確な言葉とヨハネの証言を否定することです。

イエスが死なれるまで第六時から第九時まで暗やみがありました。第九時に完了したと叫ばれました。彼はすべてのことが完了したことを知って、「父よ。わが霊を御手にゆだねます」と言いました。明らかにイエスは亡くなられた時点で御父のもとに帰られたのです。この時に彼は肉体、たましい、霊において苦しめられました。しかしそれはイエスが罪深い性質を持っていたということを決して意味していません。御父が私たちの罪を彼の上に帰せられたように、私たちに対してはキリストの義を着せ、信者の信仰を義と認められたのです。

⑥イエスが“霊において生かされた”のなら、彼が霊的に死んだのではないのでしょうか？

イエスが“生かされた”というのは聖書的です。イエスが“生まれた”ということもまた聖書的です。これらの用語は他の並行箇所に沿って理解されなくてはなりません。地獄でイエスが新生したということは異端です。キリストがこの世に生まれた時、聖霊がマリヤの上に宿り、体が用意され、永遠なるキリストが墮落した性質無しに人間の体に宿りました。同じように、彼の永遠なる霊もその（栄光を受けた）体に入り、よみがえられました。これを新生と呼ぶことはみことばのひとつの曲解です。新生とは「古いものが過ぎ去り、すべてが新しくなること」です。すでに論じた理由から、霊なるキリストは永遠なる神であるために死ぬことができません。神は神でなくなることができないからです。道であり、真理であり、いのちである方は存在を失うことはありません。イエスの物質的な体は死にました。ただそれが聖書の語っていることです。それゆえ、生まれ、生きるものとされたという箇所はこれに従って解釈されるべきです。私が思うに、これは第一コリント 15 章 44 節と比べることによってよく理解できます。

『キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。』（1 ペテロ 3 章 18 節）

『血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。』（1 コリント 15 章 44 節）

イエスは肉において（物質的に）死なれましたが、（霊において）生かされました。「霊において」というのは肉体無しにではなく、霊に満たされてという意味です。マタイ 22 章 43 節、ルカ 2 章 27 節、黙示録 1 章 10 節などと比べてください。

使徒 13 章 32 節から 36 節は詩編 2 編を復活と関連させていますが、またここでも物質的な体が強調されています。

「あなたの聖者を朽ち果てるままにはしておかれない」ただ物質的な体だけが朽ち果てるのであって、霊ではありません。

しかしながら、これらは枝葉の問題です。「イエスが二度死んだ」という教理が、キリストの永遠で不変の性質を傷付け、贖いに非聖書的な側面を付け足すこと、この事実がその教えを異端としているのです。

モリエル日本
ジェフ・トゥール